

## 研究教育業績（過去5年間）

### I. 研究業績

#### 1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Kamata Y., Kambe T., Chiba T., Yamamoto K., Kawakami K., Abe K., Taguchi K. : Paclitaxel induces up-regulation of transient receptor potential vanilloid 1 expression in the rat spinal cord. *Int. J. Mol. Sci.* 21(12):4341. doi: 10.3390/ijms21124341 (2020).
- 2) Chiba T., Kambe T., Yamamoto K., Kawakami K., Taguchi K., Abe K. : Vincristine increased spinal cord substance P levels in a peripheral neuropathy rat model. *Drug Chem. Toxicol.* 43, DOI10.1080/01480545.2019.1706547 (2020).
- 3) 野島浩史, 佐藤賢志, 大堀萌生, 阿部賢志 : マウスのかゆみ関連搔き行動に対する梔子柏皮湯エキスの抑制作用, *応用薬理* 93, 97-101 (2018).
- 4) Chukyo A., Chiba T., Kambe T., Yamamoto K., Kawakami K., Taguchi K., Abe K., Oxaliplatin-induced changes in expression of transient receptor potential channels in the dorsal root ganglion as a neuropathic mechanism for cold hypersensitivity. *Neuropeptides* 67, 95-101 (2018).
- 5) Chiba T., Oka Y., Sashida H., Kanbe T, Abe K., Utsunomiya I., Taguchi K., Vincristine-induced peripheral neuropathic pain and expression of transient receptor potential vanilloid 1 in rat. *J. Pharmacol. Sci.* 133(4), 254-260 (2017).

[総説] 該当なし

[著書] 該当なし

[その他]

新・国家試験がわかる本 2017 5. 薬理, 7. 病態・薬物治療 (分担), テコム (2017)

#### 2. 主な学会発表

[国際学会]

該当なし

[国内学会]

- 1) 平塚彩優美, 白石由菜, 平澤真帆, 神戸敏江, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, 1-benzyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline (1-BnTIQ) およびその誘導体により誘発されるパーキンソン病様症状の神経科学的評価, 日本薬学会第142年会, 3月, 愛知 (2022).
- 2) 関佳奈子, 杉田彩佳, 新井稚菜, 千葉輝正, 高野文英, 阿部賢志, 秩父産キハダ (*Phellodendron amurense*) 抽出物がマウスの引っ掻き行動に及ぼす影響, 日本薬学会第141年会, 3月, 広島 (2021).

- 3) 平澤真帆, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, Psilocin がマウスおよびラットの線条体モノアミン含量に及ぼす影響, 日本薬学会第 140 年会, 3 月, 京都 (2020).
- 4) 平塚彩優美, 神戸敏江, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, 1-benzyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline (1-BnTIQ) がマウスの脳神経細胞に及ぼす影響 - *in vivo* における評価 -, 日本薬学会第 140 年会, 3 月, 京都 (2020).
- 5) 白石由菜, 神戸敏江, 千葉輝正, 齋藤俊昭, 田口恭治, 阿部賢志, マウスの MPTP 誘発 Parkinson 病様症状に対する 1-benzyl-N-propargyl-TIQ の作用, 日本薬学会第 140 年会, 3 月, 京都 (2020).
- 6) 関佳奈子, 千葉輝正, 神戸敏江, 田口恭治, 阿部賢志, 坐骨神経結紮痛覚過敏モデルマウスの神経科学的評価 - 脊髄における変化 -, 日本薬学会第 139 年会, 3 月, 千葉 (2019).
- 7) 千葉輝正, 松永栄智, 岡裕介, 神戸敏江, 川上和宜, 田口恭治, 阿部賢志, Vincristine 誘発による末梢神経障害に関する検討 - Substance P の影響 -, 日本薬学会第 138 年会, 3 月, 石川 (2018).
- 8) 野島浩史, 佐藤賢志, 大堀萌生, 阿部賢志, マウスの搔痒モデルに対する梔子柏皮湯エキスの鎮痒効果, 日本薬学会第 137 年会, 3 月, 宮城 (2017).
- 9) 渡邊彩香, 野島浩史, 田口恭治, 阿部賢志, 腓腹神経結紮痛覚過敏モデルマウスにおける後根神経節の病理組織学的評価 - オピオイド受容体に関する検討 -, 日本薬学会第 137 年会, 3 月, 宮城 (2017).

### 3. その他特筆すべき研究業績

該当なし

## II. 教育業績

### 1. 担当授業科目

2021 年度

疾病と治療薬 I (2 年次, 15 コマ), 疾病と治療薬 II (2 年次, 15 コマ)

2020 年度

疾病と治療薬 I (2 年次, 15 コマ), 疾病と治療薬 II (2 年次, 15 コマ)

2019 年度

疾病と治療薬 I (2 年次, 15 コマ), 疾病と治療薬 II (2 年次, 15 コマ), キャリアデザイン III (3 年次, 28 コマ), キャリアデザイン III (3 年次, 20 コマ)

2018 年度

中枢神経系疾患と薬 (3 年次, 15 コマ), 代謝系疾患と薬 (3 年次, 15 コマ), 薬理・薬物治療実習 (3 年次)

2017 年度

中枢神経系疾患と薬 (3 年次, 15 コマ), 代謝系疾患と薬 (3 年次, 15 コマ), 薬理・薬物治療実習 (3 年次)

## 2. その他特筆すべき教育業績

該当なし